

## 巻頭言 「信仰による明るさ」

宇野 元

信じる心よ  
喜べ、歌え、陽気に踊れ  
お前のイエスがここにおられる  
嘆きよ、悩みよ、去りなさい  
ただ一言、お前たちに言おう  
私のイエスが間近におられる

バッハのカンタータ第 68 番「神は世を愛された」の第 2 曲、ソプラノが歌うアリア *Mein gläubiges Herze*。喜びに溢れた 3 分ほどの短い曲が、一度聴いたら忘れられない印象を聴き手に与えます。

「喜べ、歌え、陽気に踊れ」。なんの屈託もない、明るい喜びへの招きが。しかもこれは、浅はかに浮かれるよう招くものではありません。この喜びとともに、自らの困難な持ち場にたつことができる。そう呼びかけられます。

世界は私たちに疑いを教えます。ウクライナでつづく戦闘。10 月にパレスチナ自治区ガザ地区で始まった攻撃と報復。それらをめぐる国々の動き。続発する大災害。自然環境の危機。私たちは今の世界の現実と自らの無力さに圧倒されます。そのような私たちにたいして、例えば、バッハの曲によるアリア「信じる心よ」は、信仰による明るさを教えてくれます。そしてその明るさの源をあざやかに示します。——イエスがあなたの横におられる、間近におられる。あなたはこの事実立ち、嘆きと悩みを追い払うことができる！

私たちがどんなに弱くても！ また、どんなに至らなくても！ イエス・キリストがいてくださる。このことが、私たちを暗い日も明るく生きる存在にしてくれます。なぜならこの方において、神が人となり、私たちがつくる悲惨のなかにみずからを置き、私たちの罪の現実に勝利しておられるから。聖書がこのことを私たちに教えています。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者は裁かれない」(ヨハネ 3,16 以下)。

——嘆きよ、悩みよ、去りなさい。そう言うことができるようにされている。信仰の明るさは、暗い折に、それにもかかわらず賜る明るさです。